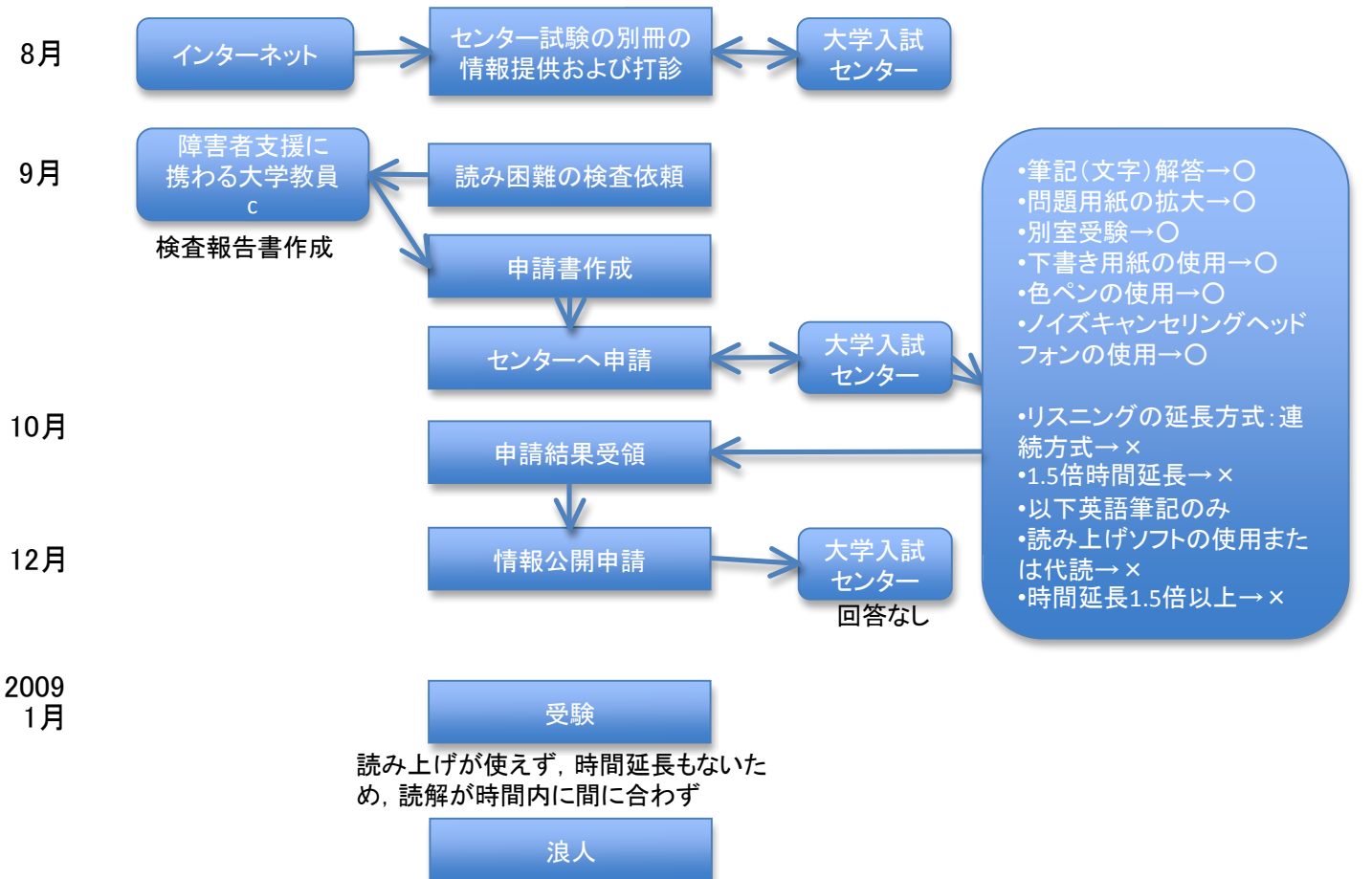
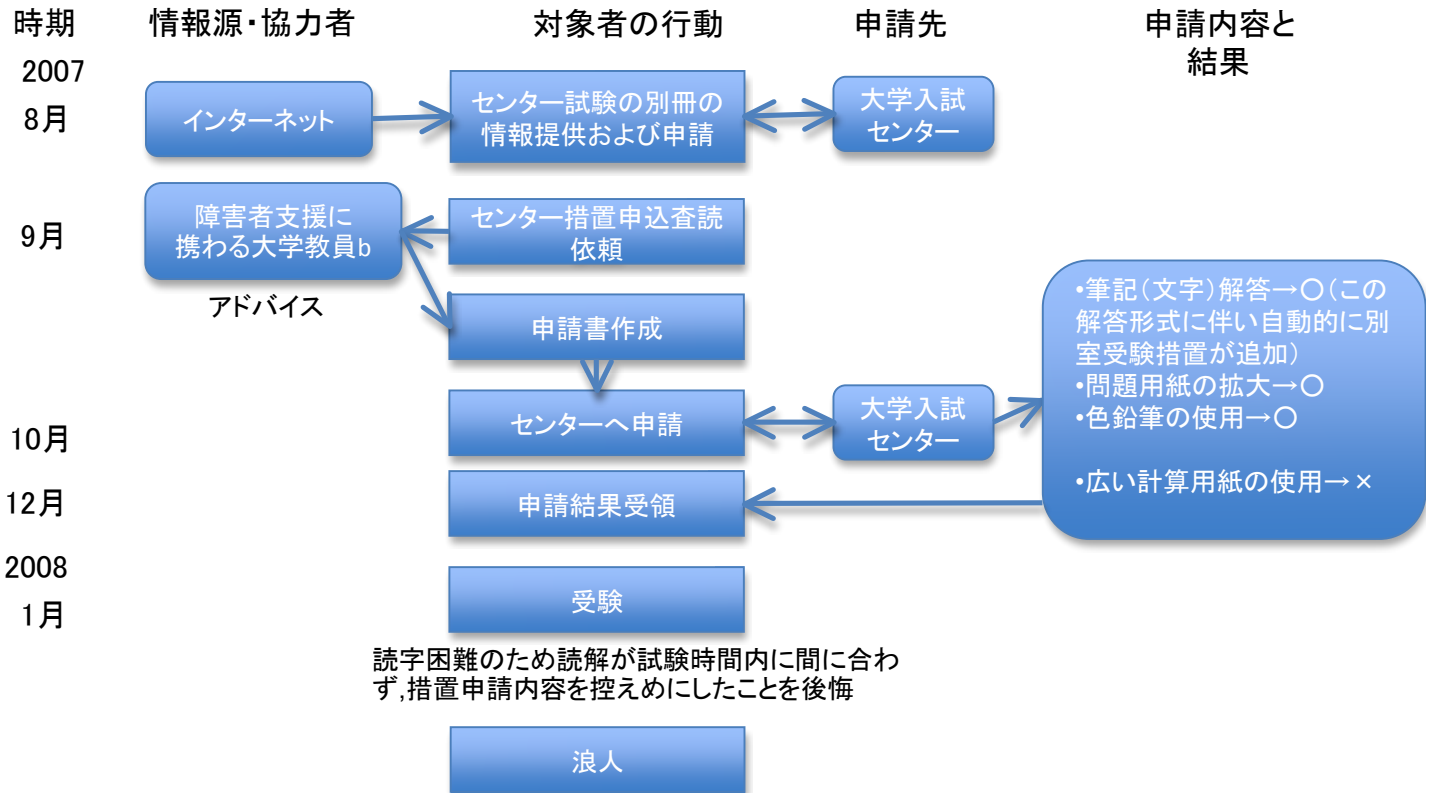


事例12:脳血管障害による高次脳機能障害(左同名半盲, 左半側空間無視による読み困難, 軽度左片麻痺)



H21年度

時期	情報源・協力者	対象者の行動	申請先	申請内容と結果
----	---------	--------	-----	---------

8月	東大先端研	特別措置申請について相談		
----	-------	--------------	--	--

← メール

10月	東大先端研	特別措置申請書 作成		
-----	-------	------------	--	--

← 相談

	主治医	診断書を得る		
--	-----	--------	--	--

→

「症状は慢性的なものであり、治ることはない」
 「24時間継続する(時間的な変化はない)」と記述を追加。
 そのため、「時間延長」と「代読者」が必要である旨、明記。

	東大先端研	特別措置申請書 提出		
	東大先端研	読み上げ、代読による対象者の効果実証に関する論文(2007年をエビデンスとして添付)		センター

→ 論文提供

→

11月下旬		他に提出できる資料はないか問われる	センター	
-------	--	-------------------	------	--

← 電話

	東大先端研	テスト結果を資料としてFAX	センター	
--	-------	----------------	------	--

→

・VPTAテスト実施
 ・結果を評価・文書化して提供

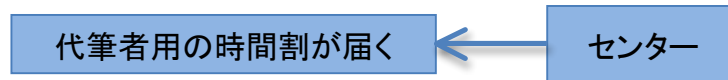
12月		センター措置決定通知	センター	
-----	--	------------	------	--

←

- ・文字解答(1.3倍)(別室)(連続方式)→○
- ・拡大文字問題冊子の配布→○
- ・色ペンの持参使用→○
- ・試験時間中のヘッドホンの装着→○
- ・リスニングにおいてヘッドホンの持参使用→○
- ・リスニングにおいてCD使用→○
- ・試験問題の代読→×
- ・試験時間延長→1.5倍×, 1.3倍○

時期	情報源・協力者	対象者の行動	申請先	申請内容と結果
----	---------	--------	-----	---------

12月



・「試験時間延長→数学のみ1.5倍, その他は1.3倍」と明記

2010
1月

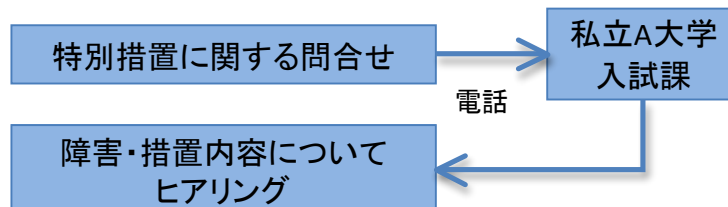


- ・数学の時間について, 対象者(1.5倍)と会場(1.3倍)の間で認識の食い違い.
- ・会場スタッフから「本部に電話しますから部屋を出ないでください」と言われる.
- ・電話後, 会場スタッフから「1.3倍で受験するか, センターと直接電話するか選択してください」と言われる.
- ・会場からセンターへ電話. 話中のため, 40分~50分足止め.
- ・センターから, 「自分たちのミスであるため, 1.5倍で今から受験をしてください」と回答.
- ・予定から1時間遅れで数学を受験(1.5倍)
- ・休み時間は携帯電話を没収され, 監視されている状態. トイレも同行.
- ・20時に全科目終了.

[感想]

- ・解答用紙では, 左側に問題のナンバーがふられているため, 左半側空間無視, 視野狭窄がある対象者には認識困難.
- ・解答用紙の選択に手間取るため, 選択科目以外の用紙は外してほしい.

2月



- ・7~8人のスタッフを前に, 自らの障害について説明
- ・措置申請の希望を伝えた

3月



- ・ヘッドホンの使用→○
- ・時間延長→1.5倍×, 1.3倍○
- ・拡大問題冊子使用→○
- ・指定したテキスト変換→×
- ・PCによる音声読み上げ, 代読→×
- ・下書き用紙の準備→○
- ・マークシートではなく筆記による解答方式→○
- ・色ペン, マーカーの使用→○
- ・試験中, 左手に手袋の使用→○

時期	情報源・協力者	対象者の行動	申請先	申請内容と結果
----	---------	--------	-----	---------

3月



4月

